

(仮称) 道の駅 「八千穂高原IC」 整備事業等について



令和4年9月 佐久穂町

(仮称) 道の駅「八千穂高原IC」基本計画関係

1. 道の駅の概要	
(1) 計画地の位置	・・・ 2
(2) 道の駅とは	・・・ 2
(3) 道の駅設置の目的	・・・ 3
2. 計画地をとりまく立地・市場環境等	
(1) 道路環境	・・・ 4
(2) 道路利用状況	・・・ 4
(3) 観光客の推移	・・・ 5
(4) 道の駅をとりまく市場環境	・・・ 6
(5) 株式会社モンベルとの連携	・・・ 7
(6) 道の駅整備に係る課題等への対応方針	・・・ 8
3. 導入機能及び施設規模	
(1) 道の駅の目的と機能	・・・ 9
(2) 地域振興施設・駐車場・トイレの施設規模	・・・ 10
(3) 整備手法・事業方式・管理運営手法	・・・ 11
(4) 開業目標	・・・ 11

八千穂地区かわまちづくり計画関係

4. 八千穂地区かわまちづくり計画の概要	
(1) かわまちづくりのイメージ	・・・ 12
(2) かわまちづくりの理念・目標・方針	・・・ 13
(3) 対象エリアと整備イメージ	・・・ 14

1-1. 計画地の位置

計画地は茅野市より麦草峠を経て、群馬県、埼玉県へと東西に延びる国道299号（日本風景街道・ルート299北八ヶ岳しらかば街道）に接しており、佐久市及び山梨県を南北に結ぶ、国道141号清水町交差点まで500mの距離にあります。

また、中部横断自動車道八千穂高原IC入口までも500mの距離にあり、現時点ではこの計画地が、町からの「起点」首都圏方面からの「終点」として位置づけられ、町及び南佐久のゲートウェイとなる立地です。



図：国土地理院地図（一部加工して作成）

1-2. 道の駅とは

「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興や安全の確保に寄与



「道の駅」の機能

- 休憩機能**
 - ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
- 情報発信機能**
 - ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
- 地域連携機能**
 - ・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設や防災施設(感染症対策を含む)

出典：国土交通省ホームページ



図：国土地理院地図（一部加工して作成）

1-3. 道の駅設置の目的

Q. なぜ道の駅をつくるのでしょうか？

A. 安全で快適な道路交通環境の提供と地域の振興に寄与することを目的としています。

① **道路交通環境の提供**

高速道路の無料区間にはSA等の休憩施設がなく、当面八千穂高原ICが起終点となるため、IC付近に休憩施設等の設置が求められています。したがって道路利用者に対して、トイレや休憩、道路情報等の提供を行います。なお、これらの整備については、長野県の事業として整備する予定です。

② **地域振興への寄与**

道の駅が南佐久の玄関口となることから、ここから佐久穂、あるいは南佐久に滞在していただく起点となる場所を整備します。道の駅を起点に、観光利用者の受入れを拡大し、滞在時間の延長と消費の増大、観光関連事業の活性化につなげたいと考えます。また、町内産品（南佐久圏域の産品）の知名度拡大と販売収益の向上を図り、地元農林水産業等の振興も狙います。

⇒直販、物販、飲食施設、アウトドア活動拠点施設、ビジターセンター（観光案内所）

地域コミュニティや子育てコミュニティの活動拠点のほか、災害時には千曲川左岸（西側）の防災拠点（清水町、大石川、宮前など）の一時避難場所としての利用を想定した施設も整備します。

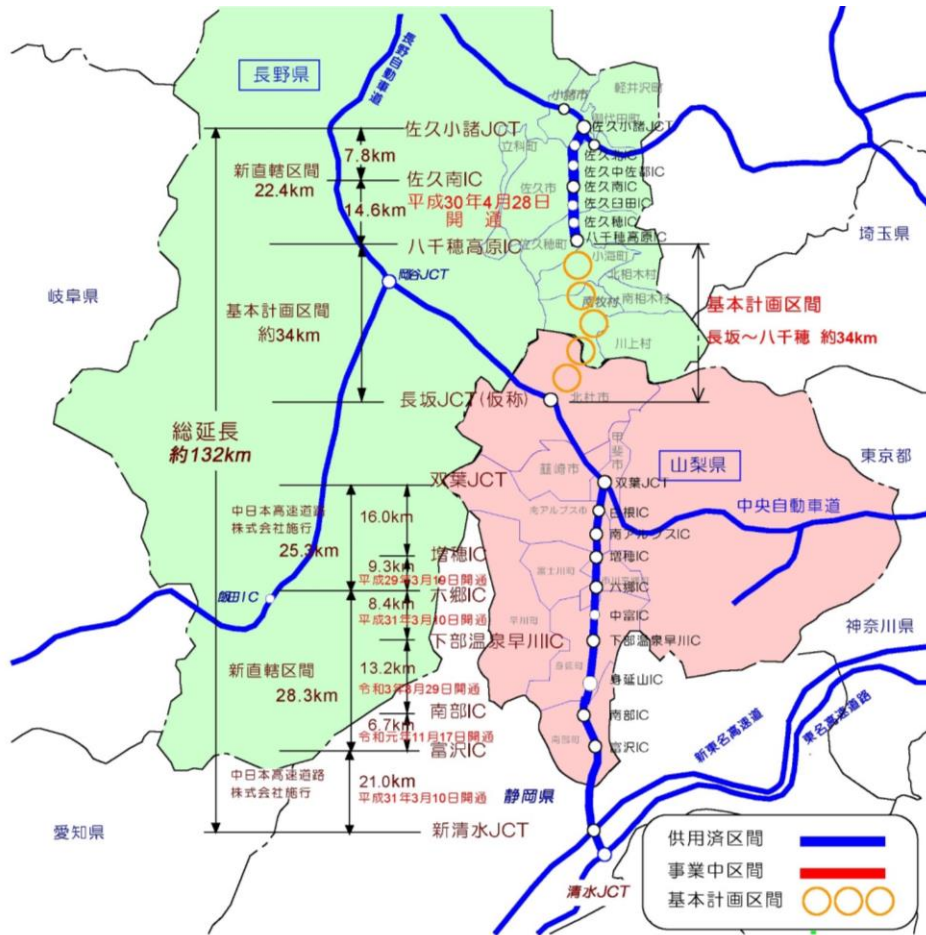
⇒ 交流促進施設

町村合併により、旧八千穂村の地域では、役場、学校、農協が統合となり地域の活力が薄れているとの声も聞こえる中で、道の駅を拠点に、町内全域の活力創出や地域振興、防災機能の向上をはかりたいと考えています。

2-1. 道路環境

中部横断自動車道の供用は順次進んでいるが、長野・山梨間については基本計画区間で着工未定のため、当面は「八千穂高原IC」が首都圏方面からの「終点」として位置づけられています。

図表 中部横断自動車道の現状



2-2. 道路利用状況

計画地前面（国道299号）を通過する総交通量は最大で8,217台（平成30年10月7日：休日）、最小で4,328台（31年1月13日：休日）でした。

最大日は白駒の池が紅葉の見ごろを迎える時期の日曜日です。なお、昼夜率（12時間交通量を1とした場合の24時間交通量指数）は1.14（平成27年度全国道路・街路交通情勢調査/一般交通量調査/長野県）であるので、下表に乗じると24時間交通量が推計できる。ちなみに最大日で9,367台（8,217台×1.14）となります。

図表 清水交差点の車種別総交通量（平成30年度調査）

観測日	10月7日 (休日)			10月18日 (平日)			11月4日 (休日)		
	大型車	小型車	二輪車類	大型車	小型車	二輪車類	大型車	小型車	二輪車類
観測方向									
① 国道141号 小海町方向直進	112	3,155	184	317	2,942	19	117	2,759	82
② 国道141号 麦草峠方向右折	21	852	124	74	662	4	23	515	43
③ 国道141号 麦草峠方向左折	168	2,727	243	467	2,072	26	186	2,400	134
④ 国道141号 佐久市方向直進	122	3,506	238	346	3,045	12	103	2,875	65
⑤ 国道299号 佐久市方向左折	34	833	84	59	632	4	15	565	50
⑥ 国道299号 小海町方向右折	235	2,687	209	473	1,879	15	170	2,161	101

観測日	10月7日 (休日)	10月18日 (平日)	11月4日 (休日)
計画地を通過する車種別総交通量(注1)	458	7,099	660
総交通量(12時間)	8,217	最大	6,367
同24時間換算(昼夜率=1.14)(注2)	9,367	7,258	7,254

観測日	11月8日 (平日)			1月13日 (休日)			1月17日 (平日)		
	大型車	小型車	二輪車類	大型車	小型車	二輪車類	大型車	小型車	二輪車類
観測方向									
① 国道141号 小海町方向直進	294	2,959	11	68	2,265	4	310	2,716	3
② 国道141号 麦草峠方向右折	65	584	3	11	405	3	49	507	1
③ 国道141号 麦草峠方向左折	486	1,982	18	71	1,777	1	579	1,788	2
④ 国道141号 佐久市方向直進	296	3,079	16	49	2,354	3	287	2,814	3
⑤ 国道299号 佐久市方向左折	50	552	9	6	418	1	52	513	2
⑥ 国道299号 小海町方向右折	480	1,882	12	60	1,574	1	559	1,589	1

観測日	11月8日 (平日)	1月13日 (休日)	1月17日 (平日)
計画地を通過する車種別総交通量(注1)	1,081	5,000	42
総交通量(12時間)	6,123	4,328	最小
同24時間換算(昼夜率=1.14)(注2)	6,980	4,934	6,432

(注1) 計画地を通過する車種別総交通量は②③⑤⑥の合算値

(注2) 同24時間換算=総交通量(12時間)×昼夜率



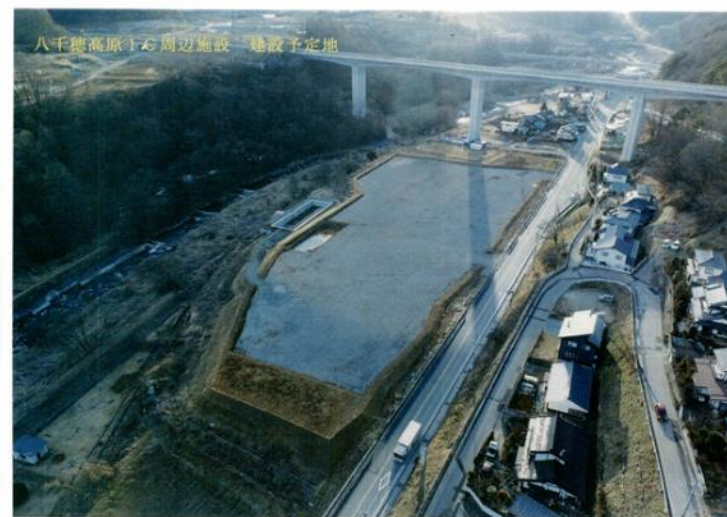
2-3. 観光客数の推移

① 県内客及び県外客数の状況

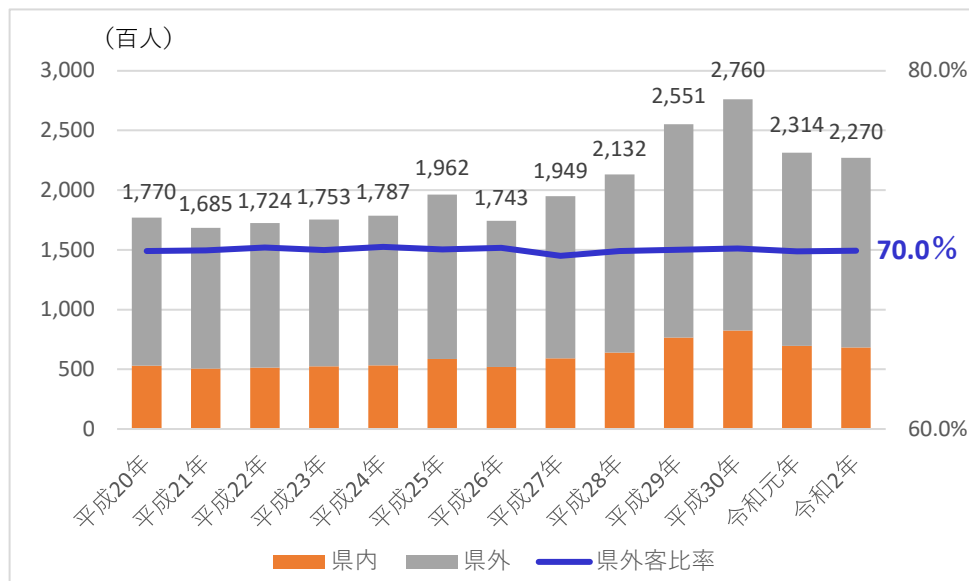
八千穂高原の観光客のうち県外客比率は70%前後で推移しています。同町はじめ周辺及び県内人口が少ないことも影響しているが、むしろ八千穂高原及び白駒の池等の県外からの集客力を有す観光地の存在が大きいと思われます。

② 日帰り客及び延宿泊客数の状況

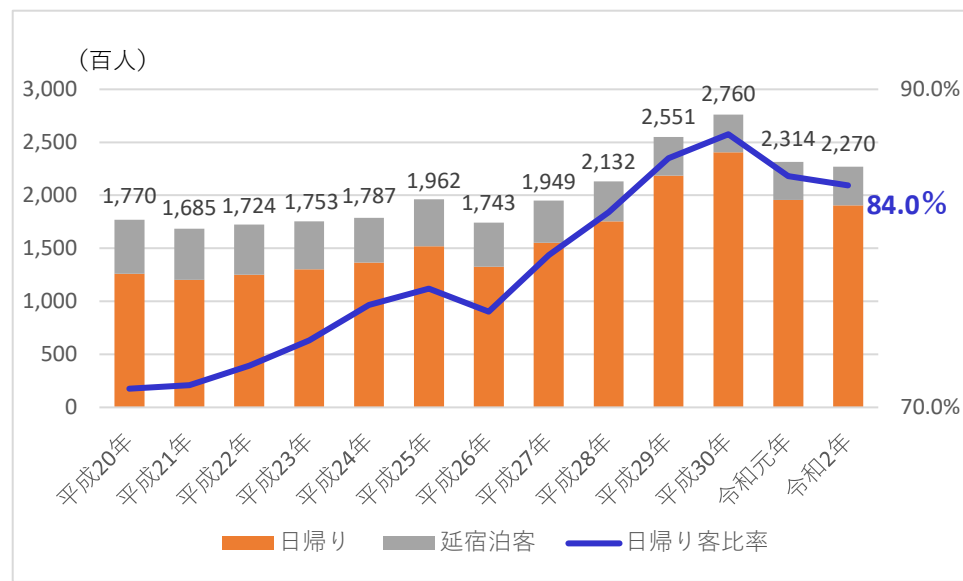
全体の8～9割近くが日帰り客であり、中部横断自動車道開通による交通の利便性向上が影響を及ぼしています。



図表① 八千穂高原の県内客・県外客数及び県外客比率



図表② 八千穂高原の日帰り客・宿泊客数及び日帰り客比率



資料：「観光地利用者統計調査」（長野県）

2-4. 道の駅をとりまく市場環境

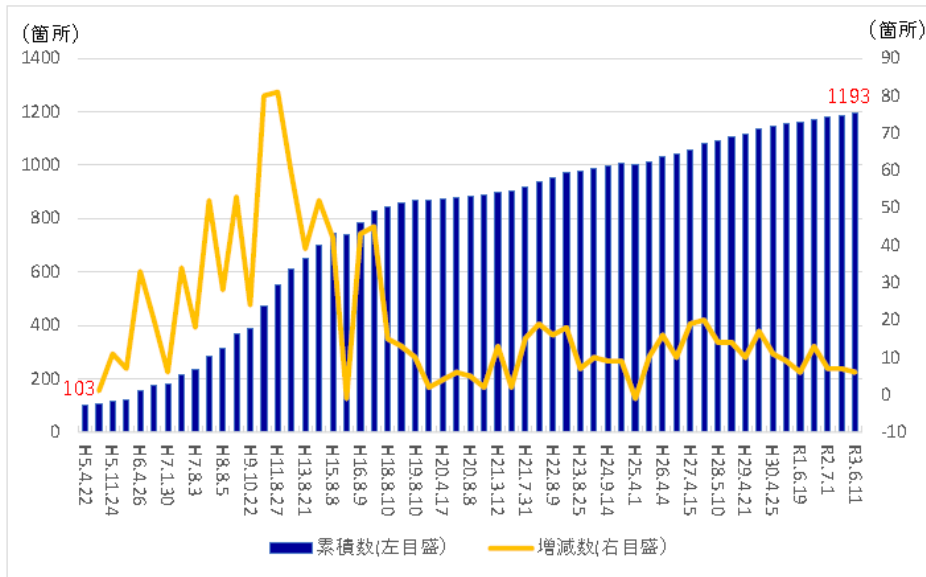
①道の駅登録状況と近年の動き

同制度は平成5年4月22日に最初となる103箇所が登録され、以後各地で整備が進み、令和4年8月5日現在で1,198箇所あるが、近年新規計画は減る傾向にあります。

都道府県別では北海道が最も多く、長野県は全国で3番目です。

また、NPO法人「元気な日本をつくる会」の調査では、道の駅の利用者数は10万人未満（25.9%）が最も多く、半数以上が30万人未満です。経営状況については詳細が明らかではないが、4割が減少とし、うち半数は継続して減少と回答しています。

図表 「道の駅」登録数の推移（令和3年6月11日時点）

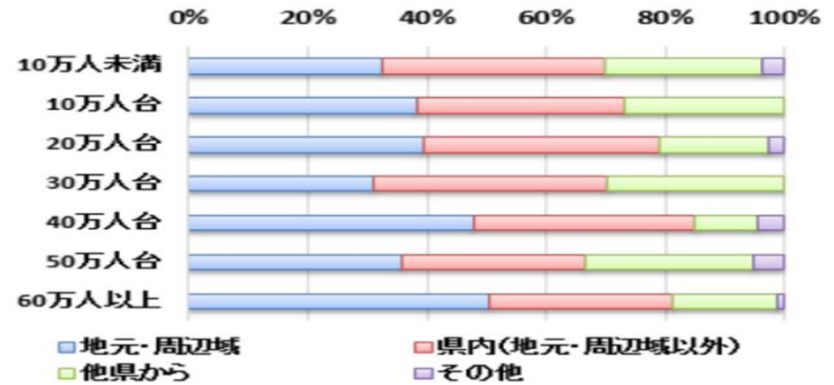


資料：国土交通省

②道の駅の利用・経営動向

利用客の発地は地元・周辺域が4割以上を占め、集客数及び売上規模が多いほど比率が高い傾向にあり、道の駅を支えるのは地域住民であることを裏付けています。

表 利用客の発地（集客数・売上規模別）



課題の上位には冬場の売上の低迷、農水産物の減少、来客者の減少があげられ、中でも農水産物については地場産のみの品揃えが難しく、近隣からの調達あるいは不足とする例が多くなっています。

図表 道の駅の課題（上位6項目）

	都市	平地	中山間	湾岸
冬場の売上の低迷	47.6%	56.5%	72.0%	58.2%
農水産物の減少	33.3%	32.0%	46.7%	32.7%
来客者の減少	23.8%	19.7%	25.6%	34.5%
光熱費	14.3%	33.3%	23.3%	30.9%
接面道路交通量の減少	9.5%	15.0%	26.1%	20.0%
近隣観光地の疲弊	9.5%	12.2%	16.6%	9.1%

資料：「道の駅による地方創生拠点の形成」（平成28年/法政大学地域研究センター）

2-5. 株式会社モンベルとの連携

The screenshot shows the Mont-Bell website's news section. The main headline is "長野県佐久穂町と「包括連携協定」を締結" (Signing of a Comprehensive Cooperation Agreement with Saku City, Nagano Prefecture), dated 2021/12/10. Below the headline is a photo of two men, one from Saku City and one from Mont-Bell, holding a document. The article text states that the agreement aims to promote outdoor activities and improve disaster preparedness in the region. A list of seven cooperation items is provided, including environmental education, youth development, health promotion, disaster preparedness, local economic activation, and support for agriculture and the elderly. The article is accompanied by social media share buttons for "いいね!" and "ツイート".

協定締結の背景・概要

佐久穂町と株式会社モンベルは、活発なアウトドア活動等の促進を通して、「豊かな自然環境の醸成」や「魅力ある人格の形成」、「防災意識と災害対応力の向上」と「地域社会の更なる活性化」に資するため、次のとおり包括協定を締結します。

連携・協力事項

- (1) 自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関すること
- (2) 子どもたちの生き抜いていく力の育成に関すること
- (3) 自然体験の促進による健康増進に関すること
- (4) 防災意識と災害対応力の向上に関すること
- (5) 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関すること
- (6) 農林水産業の活性化に関すること
- (7) 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関すること

(写真右：長野県佐久穂町・佐々木町長、左：モンベル代表・辰野勇)

出典：モンベルホームページ

佐久穂町と株式会社モンベルは活発なアウトドア活動等を通して「豊かな自然環境の醸成」や「魅力ある人格の形成」、「防災意識と災害対応力の向上」と「地域社会の更なる活性化」に資するため、令和3年12月に包括協定を締結しました。

株式会社モンベル（本社大阪市）は1975年創業の国産のアウトドア用品メーカー

● モンベル 7つのミッション

1. 自然環境保全意識の向上
2. 野外活動を通じて子供たちの生きる力を育む
3. 健康寿命の増進
4. 自然災害への対応力
5. エコツーリズムを通じた地域経済活性化
6. 一次産業（農林水産業）への支援
7. 高齢者・障害者のバリアフリー実現

2-6. 道の駅整備に係る課題等への対応方針

課 題

状況の認識と対応方針

① 立地環境条件

- 市街地近郊に所在し、現状では集客力はないが、交通量の増加が見込め、立寄り拠点としての機能が見込める。
- ただし、町民の利用（立寄り）よりも八千穂高原等を訪れる観光客の利用が中心になるものと思われる。
- 当面は「八千穂高原IC」が首都圏からの「終点」として位置づけられる。

② 市場環境条件

- 地域人口は減っており、地元需要は多くを見込めないが、観光客については増加が見込める。
- ただし、休憩・情報発信機能を除く、地域連携機能については町内類似施設等との顧客分散が危惧される。
- また、直売所等を設置する場合は供給（生産）者の協力、育成及び販売製品の通年確保が必要である。

③ 上位計画と整理及び本計画との関連づけ

- 地域コミュニティを支える基盤としての道の駅の整備可能性
- ・地域の風土を継承する。
- ・子育て・教育により町の活力を生む。
- ・地域経済創造を実現する。

④ 道の駅をとりまく市場環境等

- 施設の増加に伴い、競争も増え、利用客の減少等を招いている。
- 特に地方では主な客層である地域人口の減少により、集客力が低下し、経営に難しさが生じている。
- コロナ禍により観光事業など先行きが不透明である。

- 前面交通の交通量増加
- モンベル社と包括締結
東信エリア初の協定。魅力的な自然資源活用・発信力向上の可能性の高まり
- コロナ禍でも八千穂高原は着実な誘客実績あり

- 移住者増加
大日向小など、都会からの移住や教育への関心の高さあり
- 町内類似施設とのすみわけは可能
生産者も事業参加の意欲あり
- 町内の観光事業者、建設事業者等の事業参画の意向有り
- 採算性確保には前面交通の立寄率向上が期待できる物販・飲食・サービスに関する「特色付け」も必要
- 来る人も住む人も「よさを実感できる」場を生む事業展開が必要

- R3.4.1一部過疎地域指定(旧八千穂村)⇒R4.4.1には町全体へ
- かわまちづくり計画の具体化
- 中部横断道利用は増加の傾向あり。
- 佐久南ICに近接の道の駅ヘルシーテラスもコロナ禍の影響は比較的少ない状況。
- 自然・アウトドアへの関心の高まり、野外活動のできる環境を活かした道の駅への特化。

① 佐久穂&南佐久にふれあう出発点としての可能性（寄る・知る）

- ・佐久穂と南佐久のもつ豊かな自然の魅力と恵みを実感し未来に向けて活かすための場に！
- ・豊かな環境を知り、体感するスタート・拠点施設としての機能を強化

② 周遊促進（めぐる・出会う）と交流促進（交わる・満喫する）場としての可能性

- ・町内の各種アクティビティとの連動
- ・新たなアクティビティの創出
- ・佐久穂に根差す食・水・生業との出会いを促すセンター機能

③ 道の駅施設を目的地化しつつ、地域の安全・安心を確保する（暮らしに役立つ）必要性

- ・アウトドアをキーワードにして町の産業振興・地域資源の発信
- ・町民の暮らしにも役立つ店舗
- ・災害時にも役立つ広場・駐車場

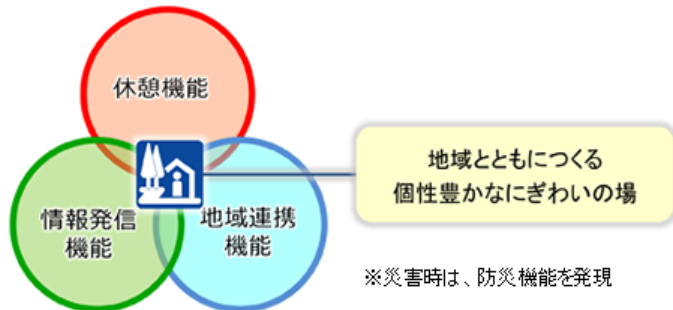
3-1. 道の駅の目的と機能

○目的

- ・ 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・ 地域の振興や安全の確保に寄与

○基本コンセプト

- 休憩機能** ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
- 情報発信機能** ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
- 地域連携機能** ・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設や防災施設(感染症対策を含む)



図表：基本的な機能の考え方と配置

駐車場・トイレを登録に相応な規模・水準で確保

地域連携機能と一体的に確保（一部は24時間トイレに併設）

住民と来訪者・立ち寄り者それぞれの主要ニーズに対応でき、町内のくらしの質の向上や南佐久一帯の振興にもつながるサービス提供機能を確保
<地域連携機能3つの視点>

1) 佐久穂・南佐久の魅力を変え体感を促す交流拠点

～アウトドアアクティビティとの連動した地域活性化推進拠点～

八千穂高原ICから先の中部横断道の整備にはしばらく時間を要する可能性が高いことから、本施設は、当面、南佐久の広い自然豊かなエリアの玄関口としての役割を担う。一方で、道の駅での物販（直売所等）、飲食施設については計画地周辺の環境などを勘案すると、一定の需要は見込めるものの、町単独での事業性は厳しいと推測されたため、株式会社モンベルとの間で締結した包括協定をきっかけにして、当施設の整備・運営に関する連携を強化し、サイクリング等の「アウトドアアクティビティと連動した観光振興」に取り組み、地域活性化の推進拠点となる施設運営を目指す。これにより、佐久穂・南佐久に季節を変えて繰り返し訪れるファンを増やし、地域の経済循環を高めることにつなげる。

2) 地域コミュニティ維持・充実の下支え機能の強化

～過疎地域の暮らしと住民どうしの地域活動を支える場～

令和4年4月に町全体が「過疎地域」となったことで、「過疎地域」が抱える諸課題解決に本施設が果たす役割が高まっている。その重要な対策のひとつとして、地域のみんで稼げる仕組みを生み出すことがあげられることから、当施設では、町民がアウトドアブランドと連携して、地域資源を棚卸しながら地元で根差した事業を起こしたり、産品、風土のPRとブランド化にも取り組むための諸活動の実践の場を確保する。さらに、地域連携機能として重要度が高まっている「防災」及び地域住民の要望のある「子育て」にも活用できる施設としても整備を進める。居住エリアにもほど近いことから一時的に避難できる場所や非常用発電、備蓄倉庫等の整備を行う。これらにより、地域の経済と安全・安心の基盤を整え、コミュニティ維持・発展につなげていく。

3) 川や水辺を活かした賑わいの創出

～地域住民・来訪者がともに憩い、川辺の魅力を満喫しながら交流できる空間づくり～

河畔に近い道の駅としての特色付けと地域住民の子育て環境の充実に合わせて取り組むため、道の駅での導入体験から川のなかで展開できる本格的アクティビティとの間につながりをもった空間づくりを進める。かわまちづくり計画と連携を図りながら、必要な施設の整備や利用促進につながるソフト事業を展開していく。

本施設では、道の駅登録の水準を満たす道路利用者向けの休憩、情報受発信の機能を確保するとともに、地域連携機能については株式会社モンベルとの包括協定に基づいた観光交流促進や町のコミュニティ創生戦略に基づいた地域経済創造にも重点を置いています。

これらの両機能を十分に満たすよう、施設規模を定めることとします。

3-2-1. 地域振興施設の施設規模

(1) 直売・物販・飲食提供機能（トイレ含む）

長野県内の関東整備局管内の道の駅の平均的な規模である1000 m²相当の規模を想定します。確保する機能あるいは施設の特色付けとして、地場の生製品の直売所、新たな商品のPRを兼ねた販売、地場産品を使った食事の提供、住む人にも訪れる人にも役立つ物販、アウトドアに関連した販売等が想定されるが、これから募集する民間事業者からの提案等を受け、定めていくこととします。

(2) 交流促進施設

地域防災・子育て支援等暮らしに役立つ道の駅として必要な施設を整備します。多目的に利用できる交流スペースや、トイレ、休憩スペース等を確保します。規模は災害時の収容を想定していることから800 m²（収容人数200人×4 m²）程度を目安とします。

(3) アウトドア活動拠点施設

佐久穂町・南佐久一帯のアウトドアアクティビティと連動した観光拠点施設を整備します。八千穂高原IC等を経由して当道の駅に訪れた観光利用者向けのビジターセンターの機能とアウトドアアクティビティ実践に役立つ物販機能を有する施設として整備します。上記施設とは別棟として整備します。飯山市等での整備計画事例を参考にし、1000m²規模の施設を想定します。

図表 駐車場の規模の目安（参考値）

区分	a 必要台数 (台)	b 1台当り面積 (m ² /台)	c(a×b) 駐車場面積 (m ²)
小型車(一般駐車場・EV)	147	30	4,410
大型車	9	150	1,350
RV車両(小型)	5	65	325
身障者対応(小型)	4	40	160
小計	165	-	6,245

3-2-2. 駐車場

駐車台数（ます数）については、計画地の前面交通量を基準に、日本道路公団設計要領の算定式などを用いて算出しました。

3-2-3. トイレ

トイレに設置する便器数については、24時間対応のトイレと、収益施設営業時間対応のトイレを分け、対応する駐車ます数から便器数を算出しました。

図表 長野県内道の駅における直売・飲食等提供拠点施設の規模

番号	名称	面積(m ²)
1	信州新町	1907.9
2	長野市大岡特産センター	950.4
3	信越さかえ	920.4
5	池田	679.6
6	中条	1063.5
9	ふるさと豊田	1471.5
11	ぼっとぽ〜く・浅科	1026.4
12	アルプス安曇野 ほりがねの里	1897.8
13	安曇野松川	1065.8
14	風穴の里	777.3
15	北信州やまのうち	562.3
16	上田道と川の駅	1497.4
18	しなの	1210.8
20	さかきた	261.9
22	オアシスおぶせ	1254.0
23	雷電くるみの里	871.9
24	花の駅千曲川	804.7
26	おがわ	761.0
29	FARMUS木島平	1638.6
31	女神の里たてしな	861.7
平均値		1074.2

基本計画書72ページに掲載した施設の空中写真（google map）からの計測値

項目	24時間対応施設	地域振興施設等	合計
男性小	7	8	15
男性大	4	4	8
女性	10	11	21
合計	21	23	44

3-3-1. 整備手法

整備の方法は、道路管理者と市町村等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類があり、当計画では、道路管理者（長野県）と町が協力して行う「一体型整備」を想定しています。



【「一体型」の整備例 緑色系：佐久市 青色系：長野県】

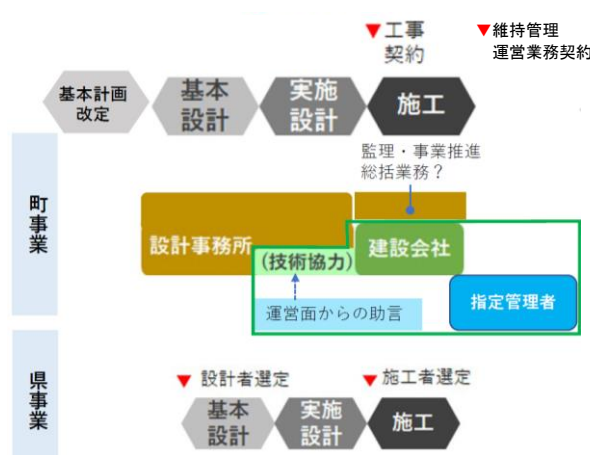
3-3-3. 管理運営手法

本計画では人件費等のコスト削減が可能な指定管理者制度等を採用し、各機能・施設の管理運営を一体（一者）とすることで効率化を図る方法を検討しています。

3-4. 開業目標

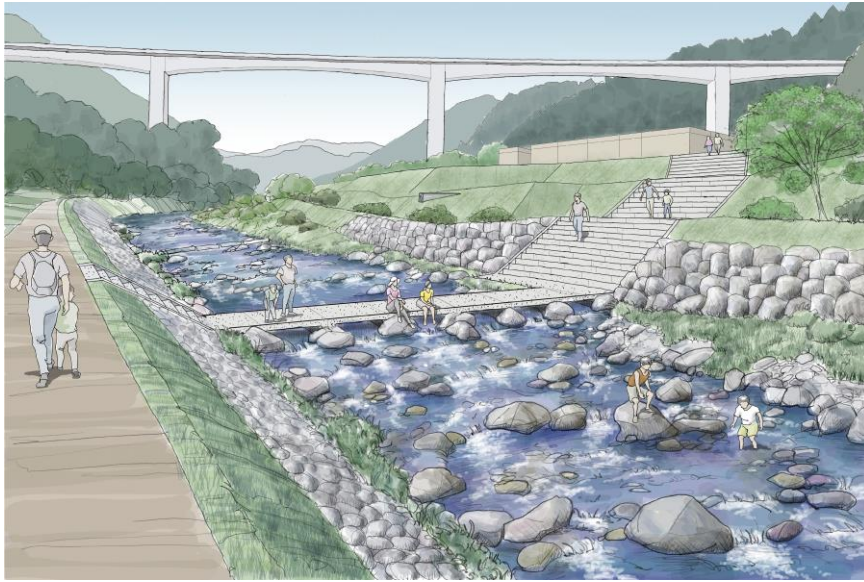
令和6年夏の開業を目指します。

3-3-2. 事業方式の検討



施工から運営を円滑に移行、あるいは、その両面を一体的に展開できる組織が、早期から設計担当事業体に技術協力という形で運営面も考慮した提案を行い、設計プロセスに将来意向を反映させる方法。ECI（アーリー・コントラクター・インボルブメント）方式にDBO（デザイン・ビルド・オペレーション）のBOの要素を加味した考え方。
ECIの手法は、規模が大きく複雑な建築物（病院、庁舎等）の整備で用いられることが多い。





(仮称)道の駅「八千穂高原IC」周辺の
大石川一帯の整備と川遊び等の利用イメージ



愛宕公園付近の再整備イメージ



八千穂駅周辺での散策のイメージ



堤防沿いの管理用道路利用のイメージ
(ポールウォーキング、ランニング等)

かわまちづくりの基本理念・基本方針

現在と未来、それぞれからの思いを込めて進める
佐久穂流のかわまちづくりの理念

現代世代

将来世代

誇りを持てる佐久穂の川と水、
そこで育む豊かな暮らしを
未来に遺す

利水・治水のバランス感覚を
大事にしながら、
新たに「遊水」空間をつくりだす

対象エリアの目標と基本方針

【大石川及び千曲川合流部付近のもつ特徴】

- 水源が北八ヶ岳 2つの水の出会いの場
- 雪解け由来の伏流水が豊富
大水が出てでももどくのが早い
- 河川区域に接する水源
- 養魚に活かせる水温・水質
- 豊富な川虫
- 急な流れで千曲に合流
- 清水町の湧き水の水源
- 利水を歩いて知りめぐれるルートが存在

移住者の増加・地元にはない視点での
新たなまちづくりの進展

道の駅整備等を契機にした
新たなまちづくりの胎動

中部横断自動車道 八千穂高原IC 開通
(仮称道の駅「八千穂高原IC」整備
(R6年度開業を想定)
株式会社モンベルと包括連携協定を締結

全国的大規模災害の多発
風水害被害拡大傾向への懸念

【目標】 来る人 住む人 みんなが「いいね」を感じる
八千穂のかわまちづくり

方針①
雄大な山々の水に生まれ佐久穂
の暮らしを伝え・発信する
フィールド

方針②
多様な生命のつながりを
みんなで学び・体感できる
フィールド

方針③
川・水を通じた人の輪と知恵で
佐久穂に新たな活力を生み広げる
フィールド

北八ヶ岳・甲武信ヶ岳由来の川・水&暮らしに
出会い、ふれあい、みんながつながるフィールドめざして

対象エリアのゾーニング

対象エリア一帯を川と川に育まれた暮らし・恵みを受取できるエリアへと発展させていくために、
3つの特色あるフィールドそれぞれの役割を定め、有機的につなぐ空間づくりを目指します。

発信・導入体験の提供

道の駅に新たに生まれる情報発信やアウトドア分野をはじめとする地域振興機能を活かし、川に育まれた佐久穂の魅力や魅力を伝えたり、川を活かしたアクティビティの導入体験の機会を提供するフィールド。

大石川フィールド
道の駅～大石川橋ゾーン
拠点施設:道の駅

体験・ふれあい・交流の場

千曲川の川辺でのいこいの場として整備された愛宕公園を拠点にし、広場や河畔の広がりを活かして、より活動的で多様な遊び・学びを実践できるフィールド。

千曲川フィールド
愛宕公園～天神橋ゾーン
拠点:愛宕公園

賑わい・活力創造

小海線沿線の古い町並み、酒蔵、食や地場産品を提供できる店舗等や、むかしたんけん館等の施設を活かし、川、水の魅力や道の駅を通じて訪れた人が満足できるサービスや賑わいを創出するフィールド。

水と暮らしのフィールド
八千穂駅前～千曲川
右岸堤防ゾーン
拠点:八千穂駅
むかしたんけん館

全域ネットワーク

つながり創出(散策・サイクリング等)

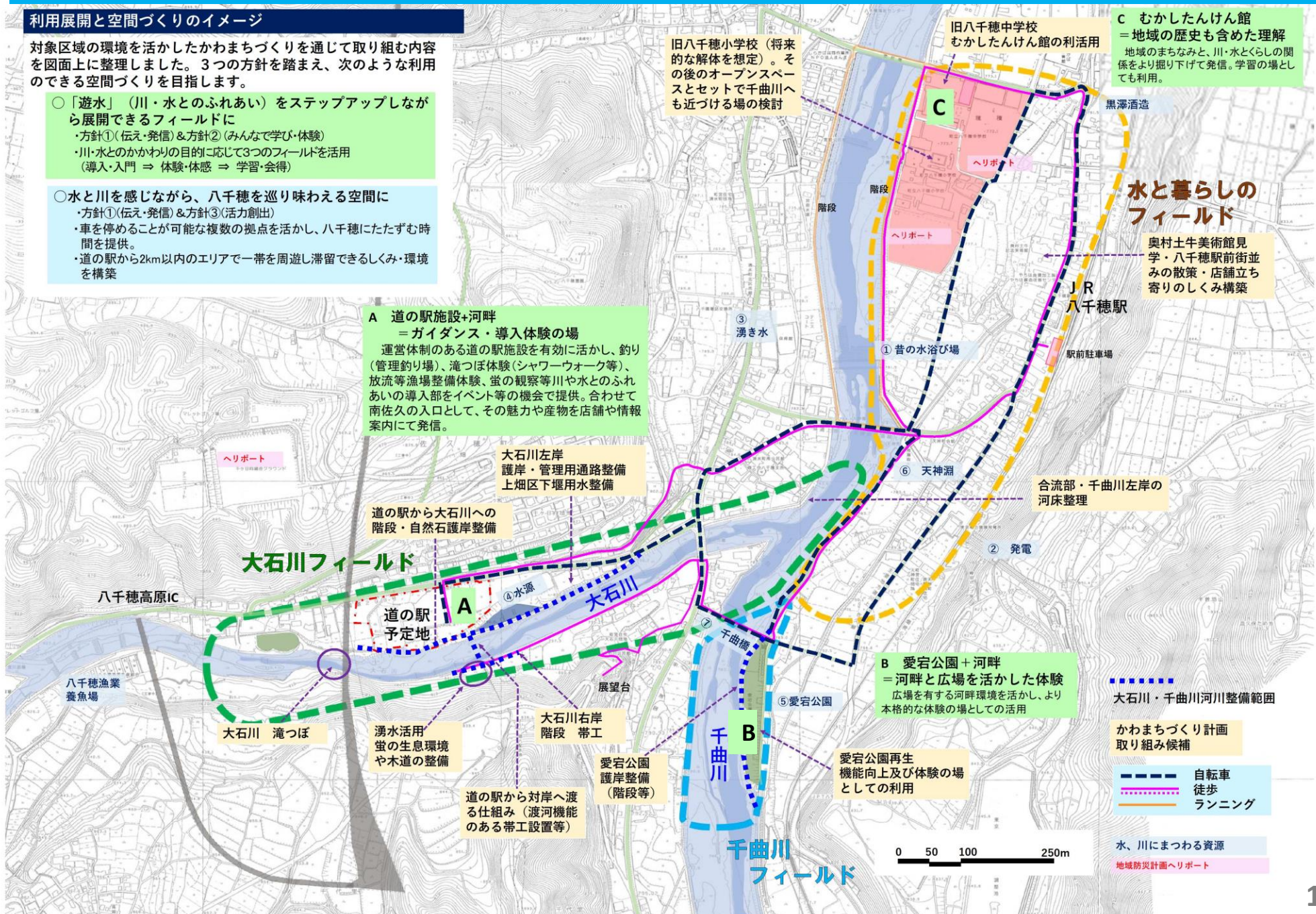
ゾーン間をつなぐ動線の充実や連続性を確保し、道の駅等の交通結節点を発着点としたサイクリングや散策の環境を充実。



利用展開と空間づくりのイメージ

対象区域の環境を活かしたかわまちづくりを通じて取り組む内容を図面上に整理しました。3つの方針を踏まえ、次のような利用のできる空間づくりを目指します。

- 「遊水」(川・水とのふれあい)をステップアップしながら展開できるフィールドに
 - ・方針①(伝え・発信) & 方針②(みんなで学び・体験)
 - ・川・水とのかかわりの目的に応じて3つのフィールドを活用(導入・入門 ⇒ 体験・体感 ⇒ 学習・会得)
- 水と川を感じながら、八千穂を巡り味わえる空間に
 - ・方針①(伝え・発信) & 方針③(活力創出)
 - ・車を停めることが可能な複数の拠点を活かし、八千穂にたたくむ時間を提供。
 - ・道の駅から2km以内のエリアで一周を周遊し滞留できるしくみ・環境を構築



A 道の駅施設+河畔
 = ガイダンス・導入体験の場
 運営体制のある道の駅施設を有効に活かし、釣り(管理釣り場)、滝つぼ体験(シャワーウォーク等)、放流等漁場整備体験、蛍の観察等川や水とのふれあいの導入部をイベント等の機会を提供。合わせて南佐久の入口として、その魅力や産物を店舗や情報案内にて発信。

大石川左岸
 護岸・管理用通路整備
 上畑区下堰用水整備
 道の駅から大石川への階段・自然石護岸整備

大石川フィールド
 道の駅予定地

大石川右岸
 階段 帯工
 愛宕公園護岸整備(階段等)
 湧水活用 蛍の生息環境や木道の整備

道の駅から対岸へ渡る仕組み(渡河機能のある帯工設置等)

旧八千穂小学校(将来的な解体を想定)。その後のオープンスペースとセットで千曲川へも近づける場の検討

旧八千穂中学校
 むかしたんけん館の利活用

C むかしたんけん館
 = 地域の歴史も含めた理解
 地域のまちなみと、川・水とくらしの関係をより掘り下げて発信。学習の場としても利用。

水と暮らしのフィールド

奥村土牛美術館見学・八千穂駅前街並みの散策・店舗立ち寄りのしくみ構築

B 愛宕公園+河畔
 = 河畔と広場を活かした体験
 広場を有する河畔環境を活かし、より本格的な体験の場としての活用

愛宕公園再生機能向上及び体験の場としての利用

大石川・千曲川河川整備範囲

かわまちづくり計画
 取り組み候補

- 自転車
- ... 徒歩
- ランニング

水、川にまつわる資源
 地域防災計画ヘリポート

